



川根本町教育委員会  
山下 斉 教育長

町内小中学校では大人数での競い合いの機会は限られていますが、日頃から小規模・少人数の川根本町らしさを最大限に生かした教育を推進しています。人数が少ないからこそ一人一人の役割と出番がはっきりしていて、自分の役割を果たしていくことで責任感や自立心が育まれます。また、互いの個性を認め合い安心感に包まれた人間関係を支えに、たとえ失敗しても何度でもやり直そうと挑戦していくことでたくまさが育まれ、友達と心を通わせ励まし合って成し遂げていく楽しさや喜びが生まれます。そして何よりも、子どもたちを地域の宝物として温かく見守り、学校を支えてくださる大勢の地域の皆さんがいます。

今回の体験会を通して、移住を考えている皆さんに、町の教育が川根本町の魅力のひとつとして受け止められ、移住決断の後押しになることを期待しています。そして、これからも様々な機会をとらえて、毎日各学校で着実に積み重ねられている川根本町の教育と子どもたちのありのままの姿を、町の魅力のひとつとして自信を持って発信していきたいと思っています。



1\_体験会参加者と最後に記念撮影。「また来てね」と笑顔で声を交わす  
2\_授業中も活発に意見交換 3\_授業中、自然と協力し合う姿が見られた

● **親子留学の実現を目指して**  
本町が進めていく「親子留学制度」は、子どもだけでなく保護者の居住環境を整備しなければ実現しません。町は、保護者に対して就業支援や地域コミュニティの紹介のほか、生活面の支援に取り組みながら、広報紙やホームページを活用して、必要な情報を丁寧に発信していきます。  
また、留学制度を実現させるためには、地域の皆さんの理解や協力が不可欠です。親子留学を検討する人は、川根本町に移住を希望する人たちです。町と学校、そして地域が一体となって、移住者を受け入れるまちづくりを推進していくことが、川根本町が「選ばれる町」になっていく第一歩につながるのではないのでしょうか。

～学校からの声～



中川根第一小学校  
石原 一則 校長

新しい出会いは子どもたちの**刺激**に、そして成長につながる

体験会に参加した児童との交流を通して、本校の子どもたちは多くのことを学んだと思います。新しい人間関係や普段とは違う学びの空間、その一つ一つが子どもの多様性を育む教材になっていました。別れ際、「もっと一緒に過ごしたい」と惜しむ姿に、留学制度が子どもの成長を育み、可能性を広げるきっかけになると感じています。



体育の授業中、積極的に意見を交換する児童たち。お互いの存在が刺激になる。

# 「通っている学校と全然違う」 肌で感じた川根本町の教育

「全てが違って、すごく面白い。来てよかった」と参加した子どもたちは口をそろえて話しました。地域と密接につながった教育現場や小規模校ならではの学習は、子どもたちにとって新鮮で、初めての体験になりました。

● **子どもたちはお互いが刺激に**  
10月29日、中川根第一小学校で、川根本町の魅力や教育を体験してもらう「親子留学体験会」が行われ、県内外から2組の留学希望者が参加しました。  
この日、参加児童たちは、第一小学校の児童と、道徳や社会の授業を受けたり、給食を食べたりして交流を深めました。総合的な学習の時間では、今年の広報紙9月号でも紹介した、横山慎一郎さんの自然体験学習を見学。地域住民が学校現場で指導する様子に驚きながらも、真剣に耳を傾けていました。  
一方で保護者は、町の職員から移住施策や学校教育についてそれぞれ説明を受けました。保護者は「地域の人たちが積極的に学校現場に関わっている環境がすごく良い。ただ、移住前後の支援体制が見えなくて、具体的な生活が想像できない」と話すなど、本音を漏らす一幕もありました。  
終日行われた体験会では、参加者の良好な反応を得られた反面、忌憚らない意見もいただきました。焼津市から参加した保護者は「子どもの



移住コーディネーター（中央）から川根本町での移住者の暮らしについて説明を受ける保護者たち

元気に学ぶ様子に、川根本町の教育に魅力をとて感じた。ママ友たちに紹介して、改めて学校を見学したい」と今回の開催に期待を込めて話しました。  
町はそんな声にこたえるために、11月末には再び、第一小学校で見学会を開催する予定です。また、令和4年度には、第一小学校だけでなく、それ以外の小学校での体験会を開催し、川根本町の教育を肌で感じる機会を増やしていきます。そして「親子留学制度」の実現に向けて、川根本町を移住先として考えてもらおうきっかけづくりを続けていきます。

地域が協力している教育現場は魅力的  
あとは移住前後の支援充実が**鍵**になると思います

地域の方が積極的に教育現場に関わっている校風に驚きました。首都圏の学校では、体験できないことばかりで、子どもの成長に必要な環境が整っていると感じました。留学制度が実現すれば、小学校から大学入学までの長期的な見通しを立てることができることも、

- 魅力的に感じました。
- ただ、親子で移住するとなると、保護者の就業先や居住地などの生活支援が欠かせないと感じます。
- 移住前後の明確な支援体制づくりが、川根本町を移住先として考える鍵になってくるのではと思います。
- でした。

～参加者からの声～



大井 沙織さん（中）  
わかばさん（右）  
咲希さん（左）